

# 新潟を離れて

寫田博之\*

先日、事務局より「新潟を離れて」と題して寄稿せよと連絡があった。新潟は入社以来の勤務地であり、これまで16年間過ごした場所である。また、現在の自宅は新潟に有り、「新潟を離れて」と言われても、自分は新潟から離れているという意識は持っていない。とはいえ、「新潟を離れて」と題して寄稿せよとのことなので、思い付くままペンを執っている次第である。

## 新潟に来た当時のこと

私は昭和61年、新入社員研修を終え4月下旬に新潟に来た。4月下旬にも拘わらず、小説の如く（今は新幹線であるが）、トンネルを抜けるとそこはやはり雪国であった。寒いところに来たものだったのが第一印象であった。営業所に着き所長に連れられていった店の酒や魚、ご飯が非常に旨く、そのときすでに「寒いところに来た」から「凄く良いところに来た」に印象が変わっていたのを覚えている。

新潟は大学時代に一度訪れている。確か新発田駅で駅泊し、既に廃線となっている赤谷線に乗ったように記憶している。当時は新潟の印象は薄く、まさかここに来るとは思ってもいなかった。それが今では新潟に自宅があるのだから不思議なものだ。

## 東京に行って最初に感じたこと

今年4月、入社以来初めての転勤で新潟営業所から本社へ移動となった。早いもので既に8ヶ月が過ぎた。東京に行って最初に感じたことは人の多さと水の不味さである。今はもう慣れたが、当初は通勤時の混雑に辟易したものである。まさに「痛勤地獄」である。また、住めば都とはいうが、これまでずっと田舎（新潟を含め）で過ごしてきた私にとっては、東京（とはいっても住まいは千葉縣市川市ではあるが）江戸川周辺の水の不味さは如何ともし難い。新潟に初めてきた時に新潟市の水は美味しくないと思ったが、ここは更にひどい。生活水はともかく飲料水はミネラルウォーターを購入しなくてはならない。新潟にいる時はミネラルウォーターなどを買おうとも思わなかったのに……。

## 現在の仕事

現在、私は環境調査部に所属し、主に土壌・地下水汚染調査を担当している。土壌・地下水汚染調査自体は首都圏での仕事が多いが、私は比較的地方へ出張することが多い。この原稿を書いている今も実は出張先からである。これまで、新潟では地すべり調査や土地質調査などを担当してきた。今年から土壌・地下水汚染調査の担当に代わった訳であるが、基本は同じであり、地質や地下水に対する考え方や客先との打合せ、調査の段取り等、

---

\*三菱マテリアル資源開発株式会社

余り違和感もなく移行できたが、知っておくべき法規や知っておいた方がよい化学の知識など、十分な知識を持たないままでの最初の仕事は精神的に辛いものであった。ただし、環境基準に示されている重金属等や揮発性有機化合物以外の物質（例えば油脂類やその他化学物質）に対する考え方、調査法なども知る事ができ勉強にはなった。今もまだまだ覚えることが沢山あり、何だか少し新入社員に戻ったような気分である。

今後ともよろしくお願いします

応用地質研究会には、入社当時より会員になり、おもに見学会に参加させてもらった。自分にとって応用地質研究会は非常に勉強になる場であり、色んな人と知り合えるよい機会でもあった。幹事としては平成12～13年の2年間、行事幹事として携わらせてもらった。各人の立場や年齢の壁を越えて親交が持て、非常に有意義であった。

これまでいろいろと有り難うございました。新潟にはまた戻ることもあるでしょうし、応用地質研究会には折りを見て参加したいと思います。今後とも宜しくお願いします。